

**《佐倉市総合計画策定 まちづくり懇談会》
佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案**

平成21年9月

佐倉市企画政策課

目 次

I.	実施概要	1
1.	開催目的	1
2.	開催日程・会場	1
3.	プログラム	2
4.	参加者数	2
II.	佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案	3
1.	課題・問題点&いいところ	3
2.	新しいまちづくりに向けた提案	5
III.	第1回検討結果「佐倉市の課題・問題点&いいところ」	11
1.	グループワーク結果の全体概要	11
2.	グループワーク結果の分野別の概要・まとめ	12
3.	アンケート調査結果の概要	31
IV.	第2回検討結果「新しいまちづくりに向けた提案」	41
1.	グループワーク結果の発表・要旨	41
2.	グループワーク結果の全体概要	48
3.	グループワーク結果の分野別の概要・まとめ	49
4.	アンケート調査結果の概要	65

佐倉市総合計画策定 まちづくり懇談会

I. 実施概要

1. 開催目的

佐倉市では、平成 21 年度から、平成 23 年度を初年度とする次期総合計画（市の将来像や、それを実現するための市政運営の指針）の策定に着手している。

この新しい計画の策定に際し、市民が市政についてどのように考え、どのようなまちづくりを望んでいるのか、市と市民との協働やまちづくりへの市民参加をどのように進めていけばよいかなどについて、市民から直接意向を確認し、構想策定と今後の市政に活かすため、市内 4 地区で「まちづくり地区懇談会」を実施した。

2. 開催日程・会場

回	会場	開催日	時間	開催場所
第1回		日	時 時	所 会
		日	時 時	
		日	時 時	
		日 日	時 時	
第2回		日	時 時	所 会
		日	時 時	
		日	時 時	
		日 日	時 時	

3. プログラム

回		
第1回	開会	
	会 開催	
	会 回	
第 回	開会	
	第 回 会	
	会	

4. 参加者数

	第 回			第 回					

II. 佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案

2回にわたるまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市のまちづくりの課題・問題点」と「まちづくりに活かすべきいいところ」及び「佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案」について、それぞれ都市、医療・福祉、教育・歴史・文化、産業、環境・自然、市民参加・協働・行財政の6つの分野に分けて整理した。

1. 課題・問題点&いいところ

第1回のまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市のまちづくりの課題・問題点」と「まちづくりに活かすべきいいところ」を6分野に分けて整理すると以下のとおり。

(1) 都市

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇佐倉旧市街地に残る昔ながらの町並み景観。 ◇おいしい水。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ▶市内南北、JRと京成の間の連絡が悪い。市の一体感がない。 ▶高齢社会を睨み、公共施設や病院へのアクセスが容易な公共交通システムの整備。 ▶道路・公共施設のバリアフリー化。 ▶駅前・商店街に活気がない。

(2) 医療・福祉

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇総合病院が複数あり、救急医療体制も整備されている。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ▶高齢者福祉施設やヘルパーの不足。 ▶老後の不安（ビジョン・見通しが無い。一人暮らしへの不安）。 ▶元気な高齢者の活用、生きがいつくり。 ▶子どもの医療費の軽減など少子化への対応。

(3) 教育・歴史・文化

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇豊富な歴史・文化資源とそれらを学ぶ場と機会の充実。 ◇城下町、歴史のまちのイメージ。 ◇国立歴史民俗博物館の存在。 ◇市民カレッジなどの生涯学習体制や文化施設の充実。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ▶歴史・文化資源がまちづくりにうまく活かされていない。 ▶歴史・文化資源の市内外へのPR不足。

(4) 産業

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇スポーツ環境に恵まれていることと佐倉ゆかりの有名アスリートを多く輩出していること。 ◇豊かな自然を活かした四季折々のイベント。 ◇成田空港への近接性。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤歴史のまち・城下町のイメージが見えない。 ➤町並み保存・景観整備の方策が不明。 ➤観光客の受入態勢が整っていない（交通アクセスの不便さ、道路・観光案内の不備、大規模な休憩・飲食場所の不在など）。 ➤商店街に空き店舗が多く活気がない。魅力的な個店が少ない。 ➤農業従事者の高齢化と担い手不足から休耕田が増えている。 ➤地産地消の取り組みが弱い。 ➤若者の就業の場が少ない。 ➤地場産業が弱い。

(5) 環境・自然

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇印旛沼周辺を中心とする緑豊かな自然と田園風景。 ◇きれいな水。 ◇佐倉城址公園をはじめとする公園の充実度。 ◇散歩道・ウォーキングコースがたくさんある。 ◇ゴミの分別がきちんとして行われている。まちがきれい。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤印旛沼の浄化、水質改善、環境保全。 ➤都市開発による緑地の減少。 ➤休耕田がゴミ捨て場になっている。 ➤地球温暖化防止への取り組みが不十分。

(6) 市民参加・協働・行財政

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇行政において市民の声を聞く機会が増えた。 ◇市民カレッジなど市民の学習意欲が高い。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤まちづくりに対する市民の意識が低い。 ➤市民活動団体・NPOの連携や横のつながりが弱い。 ➤シルバー世代の活用・活躍の場・機会が不十分。 ➤新旧住民、南北地区の住民の意識の違い・温度差・交流不足。 ➤市の財政状況がわかり難い。

2. 新しいまちづくりに向けた提案

第1回のまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案」について、共通の主旨・視点により分類・整理した。

提案数が最も多いのは、「市民参加・協働の視点」で8件、次いで「佐倉の強み(自然と歴史・文化・スポーツ)を活かす視点」が7件、「産業振興(商業・観光振興)の視点」が6件、「安心・安全の視点」が5件、「市の統一感・市民の一体感の創出の視点」が4件、「都市基盤・土地利用の視点」が3件であった。

(1) 都市基盤・土地利用の視点【提案数3件】

提案1-1. 道路・公共交通機関の改善

- ・道路については、志津霊園問題の早期解決、道路工事の振動削減、路面の全面舗装の見直し、ブロック塀の生け垣化、バリアフリー化、大型車の進入禁止などを進める。
- ・公共交通機関については、京成とJR間や成田新高速鉄道とのアクセスの改善及び京成線の臼井止まりの延伸などが望まれる。

提案1-2. 都市の再構築による市の一体感創出

- ・地域格差の是正も課題である。鹿島川を挟んでこちら側の議論をしないといけない。教育も根付かせないといけない。格差是正のためには、市域全体を巡るワンコインバス等の交通整備が必要。
- ・まちづくりにおいては都市計画がまちづくりそのものである。みどりを大切にし、都市を再構築していく。きちんとやるのが大切である。

提案1-3. 計画的な土地利用

- ・まちづくりの原点は土地利用になる。どれだけの面積があり、どれだけの人が住み、緑があり、商業・工業施設があるのか。理想を持って取り組まなければならない。

(2) 安心・安全の視点【提案数5件】

提案2-1. 安心・安全のまちづくり

- ・医療・福祉は子供からお年寄りまで多世代が住み続けられる町を目指す。防犯・防災もキーワードとなる。これらは市民協働がないと図れない。医療は充実しているけど福祉は不安定要因が残っている。

提案2-2. 子どもからお年寄りまで誰もが大切にされるまち

- ・子育てしやすい町、お年寄りも子ども人を人が大切にできる町。
- ・子育て支援で、保育サービスなどを充実させる必要があるが、親もサービスの受け手で終わりではなく、親が、子育てが楽しく、成長していく町になればよい。子供の人権を大切にすることも重要。

提案2-3. 安心して子どもを産み育てることができるまち

- ・佐倉市は、産婦人科が少ないので、子どもを産みやすい環境とすることが必要。

提案 2-4. 仲間づくり（市民同士の支え合い）

- ・介護にならないように気をつけているが、いずれそのようになった場合、国や市が面倒をみってくれる仕組みがある。しかし、歩けるおばあさんで一人暮らしとなったときなど、そういう人たちがひとりぼっちにならないようにすることが大切である。
- ・元気ならお金が使えるが、元気がなくなるとお医者さんにもいけなくなる。少し元気になったからお医者さんに行こうかということになる。精神的に落ち込んでしまう。楽しく暮らせる仲間づくりが必要。一人で困っている人が、相談したり、学べる場があれば安心できる。私の場合は、相談にのってと近所から来る。

提案 2-5. お年寄りの活用

- ・お年寄りに子どもたちの見守りなどのパトロール活動で活躍してもらおうとよい。子どもたちと触れ合うことで、お年寄り自身が元気をもらっている。

（3）佐倉の強み（自然と歴史・文化・スポーツ）を活かす視点【提案数7件】**提案 3-1. 佐倉の強みを活かしたまちづくり**

- ・強みを生かしたまちづくりを進めるべきである。その強みとは、住環境がよいこと、歴史があること、自然環境である。
- ・まず、住環境が整備された、立派な住宅地であることをアピールし、歴史地区は徹底的に整備する。たとえば電線は地中化する。そしてまちのメインポイントとして、よそから人に来てもらう。そうすると自然にまちが活性化する。散歩道もいろいろありすぎて、よそから来たときにわかりにくい。大佐倉とか臼井城、印旛沼などにきちんと整備し、気楽に歩ける道としてよそにPRしていく必要がある。そういう積み重ねで、全体のまちのイメージをあげていくことが重要である。

提案 3-2. 佐倉市の財産の活用

- ・文化資産・文化施設、スポーツなど、観光に生かして魅力を発信していく。その際民間企業とのパートナーシップを図る。企業メセナと結びつけ、企業に協力してもらえないか。たとえば、順天堂記念館など。

提案 3-3. 文化振興によるまちづくり

- ・佐倉市には、資産がある。浦安市や船橋市はいくらお金を持っていても城下町は買えない。それをいかに活用していくかを考えると、今までの対応はあまりにもお粗末である。再発見し、整理して、どう生かすか、相当のクリエイトが求められる。
- ・ミュージアムのあるまちも活用したい。これらをつなぐと面で売り出せる。
- ・もてなしの心を育むことが求められる。来街者に佐倉とはよいところと感じてもらい、もう一度来たいと思ってもらい、誰かを連れてきたいと思ってもらい。そうやってリピーターを増やしていく。
- ・総合的に関連づけていくのが、戦略である。文化資産を生かしたまちづくりを進めていくべきである。

提案 3-4. 自然を活かす

- ・印旛沼や川を生かした観光ルートを設定する。文化施設と豊かな自然、多様な生物、風光明媚なところを結びつける。たとえば、印旛沼で若者が参加できるいかだレースをしたらおもしろい。

提案 3-5. 自然と農業によるまちづくり（花と農の恵みで多様な交流を展開）

- ・ 佐倉市の資源は何かと考えたとき、花、自然、スポーツ、花火が上げられる。これを全国にアピールしていく。
- ・ 自然と農業では、佐倉は米を始め農産物がとれるが、これらをいかにアピールしていくかが重要。道の駅を整備して、農産物のコミュニティをつくってはどうか。これにあわせて、メイドイン佐倉バーベキュー祭りを創設し、市民や市外の人を巻き込み、自然の恵みをアピールしていく。
- ・ 花によるアピールでは、桜、チューリップ、ラベンダー、ショウブ、草ぶえの丘のバラと、3月から花にまつわるイベント等をリレーしていくことができる。花リレーをアピールしていく。

提案 3-6. みどりや農業が目に見えるまちづくり

- ・ 市民農園があるが、広さは決まっており、期間も決まっていて使いづらい。自由に選べるようにしてほしい。
- ・ 農地を豊かにしていく。また、全体的にみどりを残していく。
- ・ これらを、きれいに守るためには、人手やお金が必要である。そうすると、若い人が市内で働けるようになる。

提案 3-7. 佐倉菜園都市の創造（農業体験による多様な交流）

- ・ 佐倉市への来訪者が、ただ来て帰って終わりではなく、リピーターとなって再来訪するような仕組みが重要。そのような魅力を創造していく。
- ・ 家庭菜園・市民農園などで農業観光に結びつけていく。そこに新旧住民の交流も生まれる。異世代交流にもつながっていく。農業の活性化にもなる。

（4）産業振興（商業・観光振興）の視点【提案数 6 件】**提案 4-1. 商業と観光の振興**

- ・ 商店街活性化では、地産地消を生かし、対面販売の店を増やすことが重要。
- ・ 観光面では、市内観光のバスツアーを設けるとよい。ガイドは地元を知っているボランティアを活用する。

提案 4-2. 観光資源の活用

- ・ 観光資源の活用を進めるべき。印旛沼、歴博、武家屋敷などを一体管理して魅力のあるPRをしていく。そしてお金を落としてもらおう。印旛沼は、子供が泳げ、大人が釣りができるようにしたい。カミツキガメを駆除して安心して遊べるところとしたい。

提案 4-3. 観光をキーワードに

- ・ 印旛沼、歴史資源を生かす、農業、地場産業の育成、ベンチャー企業の誘致などを含め、財源確保のために。観光立市をキーワードに真剣に取り組むべきである。

提案 4-4. 観光振興と交流促進

- ・ 大型バスが入れる道の駅みたいなものをつくり、お金を落としてもらおう。もてなしの心で受け入れていく体制をつくる。チューリップまつりをもっとアピールする。
- ・ 桜のまちを目指す。鹿島川の土手に市民の協力で苗を植える。資金・労力は市民が、権利調整は市が行っていく。

提案 4-5. 産業振興と雇用の確保

- ・働く場としてIT産業を振興したらどうか。佐倉は光ファイバーの太い基幹線が入っていないが、国の負担9割で導入が可能。そしてIT産業を盛んにすべきである。
- ・観光イベント等での販売品（お菓子や野菜）に特徴がみられない。佐倉ならではの本物を販売することが大切。とってつけた変なものを売ると2度と人が来なくなる。

提案 4-6. メディアの戦略的な活用

- ・アドマチック天国や地井散歩で取り上げてもらったのにこれを観光につなげていない。フィルムコミッションなどでPRするのもよい。

(5) 市の統一感・市民の一体感の創出の視点【提案数4件】**提案 5-1. 佐倉サミットの開催**

- ・様々な考えを持っている人と意見を交わす場が必要であり、佐倉サミットの開催を提案したい。長期的な視野に立ち、年代別地区別に代表者を募集する。中高生から60・70代までが長期で参加し、佐倉にどういう問題があるのか、棚卸しをして洗い出す機会があってもよい。
- ・市内は7つの地域に分けられる。この7つの地区から代表を呼んで、個々の問題を長期的、建設的に話し合う機会があってもよい。

提案 5-2. 新旧住民の交流（市民意識の一体化）

- ・鹿島川を挟んで新旧地区の結びつきがやすい。何か交流しないといけない。
- ・旧地区では農業や商業をやっていて産業振興が必要であるが、新住民はベッドタウンで安らぎとかみどりを求めている。

提案 5-3. 佐倉市の顔・シンボルづくり

- ・佐倉はどんなところと聞かれたらどう答えるのか。私はさあと答える。シンボルをつくらなければいけない。高齢者が安心して住める、高齢者と子供の交流がある、生涯健康などいろいろあるが、まとめると生涯学習宣言都市がよい。
- ・産業もまちの顔づくりには必要である。住民一人一人の顔が見える挨拶ロードをもうける。話題性のあるまち。テレビの活用も。産業では佐倉はこういうものが有名というものがない。道の駅のようなものに飾られPRできる産業おこしが必要である。

提案 5-4. 市民協働とコミュニティづくり

- ・懇談会を定例化し、市民と行政が連携をとりながら、お隣同士とも仲良くやれる、市民協働とコミュニティづくりを進めていく。

(6) 市民参加・協働の視点【提案数8件】**提案 6-1. 市民活動団体の活動に市民が参加しやすい仕組みづくり**

- ・市内でいろいろ活動している知識が豊富なグループを一つにまとめ、参加しやすくし、知識を利用しやすいようにする。まとめて管理するところをつくる必要がある。

提案 6-2. 協働によるまちづくり

- ・ 佐倉市の人口は、17万人でピークアウトするが、その中でも65歳以上人口が3万人から5万人に増える。
- ・ その結果、人々の収入が減り、市としての収入も減る。一方、支出は増える。
- ・ そこで、リタイアした人の力を活用していくことが、重要となる。
- ・ 今までは提供する側が市で、市民は受ける側であったが、今後は、市民が提供する側にまわる必要が出てくる。
- ・ シルバー世代、団塊の世代を活用していくことが求められる。それをコーディネートしていくのが市である。
- ・ そういうモデル地域でありたい。
- ・ シルバー世代の組織化が重要である。

提案 6-3. 市民参加のまちづくり

- ・ 市民参加のまちづくりが大前提である。平成18・19年頃、市民協働条例ができ、その中でまちづくり協議会が位置づけられた。これをベースにやっていくのが一番よい。そこにテーマを与えてやっていく。ここには自治会、社協、NPOなど、まちづくりに関わる団体が関わっていて、構成するすべての団体で問題解決に向けて取り組める。
- ・ ただし、この仕組みが今は小学校区単位でつくることとなっているが、ユウカリを例にとると、通学圏と生活圏は異なっていて、通学圏単位で問題解決を図るのは無理である。自治会や地区社協は長年生活圏に基づいて活動してきているので、そのエリアでまちづくり協議会をやっていくのがふさわしい。そこで地域の実態に合わせて住民主体でやると解決できる。

提案 6-4. 市民参加型のまちづくり

- ・ 市民参加型のまちづくりを進める。市域の特性に応じたあるべき姿がある。それを市民参加で進める。

提案 6-5. 市民力の活用 1

- ・ 市民の力（市民力）を事業に生かす工夫が市に足りない。いろいろな提案を具体的に書いてあるので是非参考にしてほしい。
- ・ 目安箱のような仕組みを作って、常に市民の声が行政に反映できるように。市が手伝ってほしいことのボランティア募集。安心安全や道案内ボランティアの育成など。

提案 6-6. 市民力の活用 2

- ・ 団塊の世代の経験や知恵を活用していく。京成沿線（新市街地）と旧市街地の交流を進めていく。市民協働のためには挨拶運動から。

提案 6-7. 市民力の活用 3

- ・ 団塊の世代は、一線を退いていてもスキルがある。それを地域に落とし込んでもらう。市にはそういう人たちが活躍する場を提供してもらう。
- ・ 市の予算は減っていくので、市の施設や行政サービスを民間に移管・委譲していくとともに優秀な人たちを活用していく必要がある。指定管理者制度のように行政の経費を節減する仕組みがあるが、民間のノウハウや活力、サービスを活用することが重要。
- ・ 市民主体のまちづくりを進める方法としてまちづくり協議会がある。この仕組みをうまく円滑に行くようにしていくことが求められる。シルバー世代の組織化も重要。

提案 6-8. 市民と行政の信頼関係の構築

- ・ 行政からはいろいろ書類が出ているが7割の人は知らない。まちづくりを進めるためには、行政と市民の信頼関係が重要である。議会では改革委員会がでているが、市民と話し合わせる義務を持たせることが重要である。いまは信頼関係ができていない。

(7) 地球温暖化防止・環境の視点【提案数 2 件】**提案 7-1. 地球温暖化防止への取り組み**

- ・ 地球温暖化防止だけでなく、地域の空気、水、みどりをまず守りたい。その上で、地球温暖化防止については、そういうことをやっているグループを市で広報してもらったり、市民が参加しやすい環境作りが大切である。そういう活動をPRする施設も必要ではないか。また、リサイクルで不要品をほしい人にわたる仕組みができないか。ゴミ焼却場の余熱を使ったプールもほしい。

提案 7-2. 環境都市を目指す

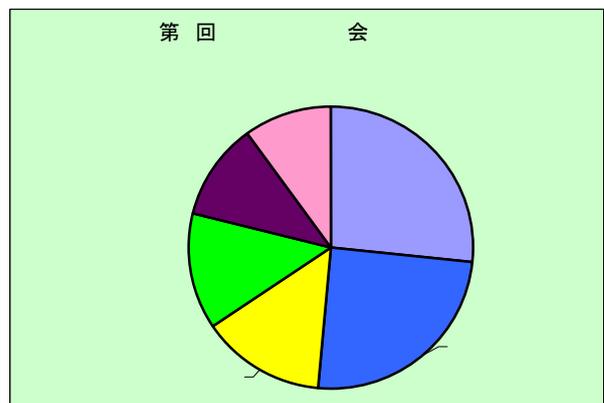
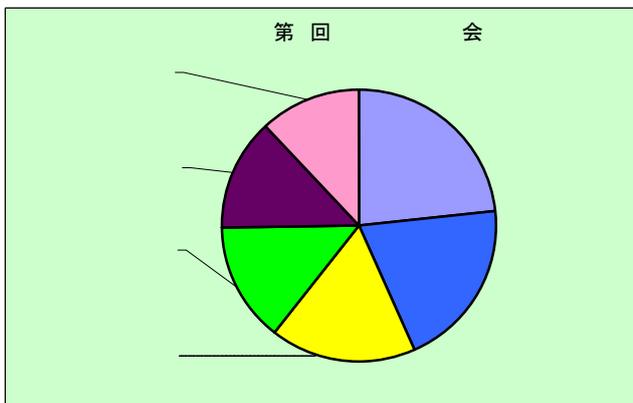
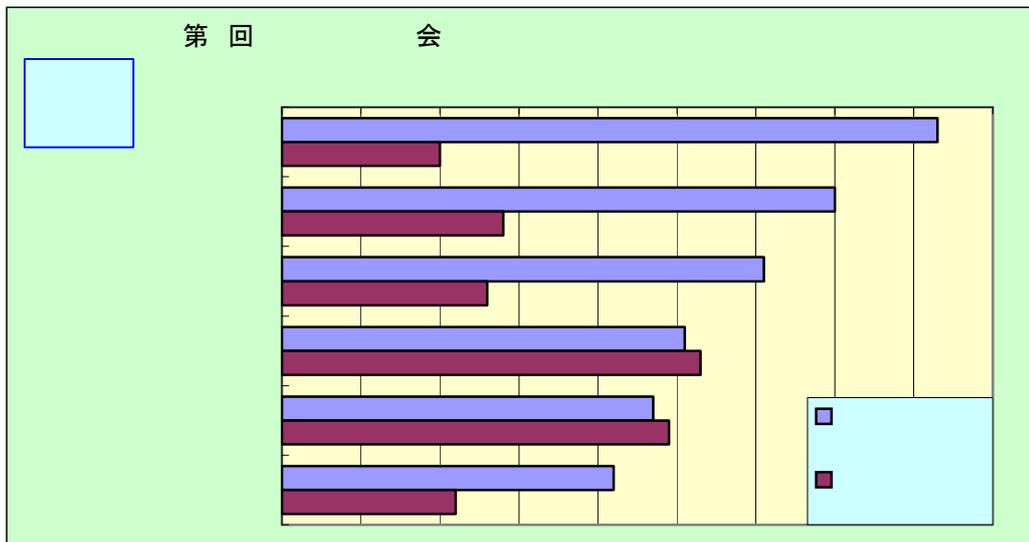
- ・ 印旛沼が一番汚い。そこで環境によい石けんを100%が使うまちにする。それを市内外に宣伝していく。きれいになれば観光につながる。まずは、市の公共施設等で率先して使用し、市民にPRしていく。使用の際は、環境にやさしい石けんであること、地球温暖化防止に対する市民一人ひとりの取り組みの重要性などの説明書きを置く。また、市内のスーパーなどにも使用をお願いしてはどうか。

III. 第1回検討結果「佐倉市の課題・問題点&いいところ」

第1回のまちづくり懇談会（グループワーク）では、まちづくりの「課題・問題点」と「いいところ」を検討していただいた。その結果を以下のとおりまとめた。

1. グループワーク結果の全体概要

- ・ 4地区合計で354件の「課題・問題点」と198件の「いいところ」が指摘された。
- ・ 「課題・問題点」では、最も指摘が多かったのは「都市」（83件）で、次いで「産業」（70件）、「市民参加・協働・行財政」（61件）などとなっている。
- ・ 「いいところ」は、「環境・自然」が53件で最も多く、次いで「教育・歴史・文化」が49件、「産業」が28件などとなっている。
- ・ 「いいところ」の方が「課題・問題点」より多かったのは、「環境・自然」（いいところ＝53件、課題・問題点＝51件）、「教育・歴史・文化」（いいところ＝49件、課題・問題点＝47件）の2分野であった。



2. グループワーク結果の分野別の概要・まとめ

(1) 都市

1) 課題・問題点《主な意見》

①公共交通

- ・高齢者の移動、超高齢社会を睨んだ移動手段の確保
- ・公共施設・病院へアクセスし易い公共交通システム
- ・市内南北、JRと京成の連絡・アクセス
- ・バス便（路線バス・巡回バス）が不便

②歩道整備

- ・バリアフリー（坂道・段差がきつい、高齢者・車椅子への対応）
- ・狭い・未整備（特に通学路）

③道路整備

- ・狭く・行き止まりが多い（緊急・救急時の対応が困難。観光にも不利）
- ・分断・連絡不便（志津駅周辺、JR佐倉方面と臼井・志津・ユーカーリ方面）
- ・市の一体感の創出や協働・共同事業への支障（含：公共交通）

④駅前

- ・駅前ロータリー・商店街がさびしい・活気がない（特にJR佐倉駅＝市の玄関口、京成臼井駅）

⑤防犯

- ・街灯が少ない（夜間暗くて不安な道が多い）
- ・防犯システム・パトロールの強化（不審者、子どもの安全）

⑥まちづくり

- ・へそがない
- ・都市（開発）と自然（保存・保全）のメリハリ・バランス
- ・旧市街地と新市街地の位置づけ、交流

2) いいところ《主な意見》

①上下水道の整備

- ・水がおいしい

②防犯・防災

- ・治安が良い。
- ・夜回り・学童信号係りなど、防犯パトロールが充実している
- ・住民の防災意識が高い

②景観

- ・佐倉の旧市街地の美しい景観

(2) 医療・福祉

1) 課題・問題点《主な意見》

①介護保険

- ・施設不足、ヘルパー不足

②高齢者福祉

- ・老後の不安（ビジョン・見通しの明示、ひとり暮らしへの不安）
- ・元気な高齢者の活用（活動・生きがいの場づくり）

③健康づくり

- ・体操・スポーツの奨励（身近な体操やスポーツの場と機会の創出）

④医療

- ・子どもの医療費の軽減、少子高齢化社会に向けた助成

2) いいところ《主な意見》

①医療

- ・総合病院が複数あり、その他病院が多く充実している
- ・救急医療、小児救急医療の体制が整備されている

(3) 教育・歴史・文化

1) 課題・問題点《主な意見》

①子育て支援

- ・子どもの数が少ない
- ・保育所・子育て支援施設が不足（保育所の待機児童が多い）
- ・子どもを安価で容易に預けることができる施設
- ・保育や教育にかかる費用が高い
- ・学校の空き教室の開放、子供向けサークルの増加

②学校教育

- ・西志津小が狭い（子どもが多すぎる）
- ・学区の見直し
- ・教育者の人材
- ・学力低下

③施設

- ・既存の公民館が狭い
- ・公民館等の習い事の会場・集会の会場が不足
- ・図書館の整備・充実

④歴史・文化

- ・ 歴史・文化関係の場所・サービスが不足
- ・ 歴史・文化関係の資源が活かされていない

2) いいところ《主な意見》

①歴史

- ・ 歴史資源が豊富
- ・ 歴史について学ぶ場と機会が豊富
- ・ 城下町のブランド、歴史の街のイメージがある
- ・ 歴博の存在価値

②生涯学習

- ・ 市民カレッジが充実している
- ・ 音楽ホールがあり、企画内容もよい
- ・ 公民館・図書館が整備されている

③子育て支援

- ・ 保育所・保育サービスが充実
- ・ 市の行事・イベントに託児サービスがついている
- ・ 子育てサロンや幼児参加プログラムが充実

(4) 産業

1) 課題・問題点《主な意見》

①観光

〈地域資源〉

- ・ 歴史の街・城下町のイメージが見えない
- ・ 街並み保存や景観整備への方策が不明
- ・ 歴史・文化資源の活かし方が下手・活かされていない
- ・ 印旛沼の自然が活かされていない

〈交通、情報発信、休憩・飲食スポット〉

- ・ 市外から来訪する観光客への交通アクセス面の配慮不足
- ・ 道路案内・観光案内・散策コース案内が不備
- ・ 観光客が休憩する場所・飲食する場所が少ない

〈誘客・PR〉

- ・ 誘客活動・PR不足

〈その他〉

- ・ 佐倉市のシンボルがほしい
- ・ 観光で収入が得られる仕組みづくり

②商業

- ・ 商店街に空き店舗が多い、活気がない
- ・ 安くて美味しいお店やオシャレなお店など、魅力ある個店が少ない

③農業

- ・ 農業従事者の減少・高齢化により元気がない
- ・ 休耕田が増え、荒れている
- ・ 地産地消の取り組みが弱い

④全体

- ・ 企業・産業が少ない。地場産業が弱い
- ・ 若者の就業の場が少ない

2) いいところ《主な意見》

①観光

- ・ 歴史と文化資源に恵まれている
- ・ スポーツ面で有名人を輩出している
- ・ 長島やマラソンだけでなく相撲でも「雷電」という力士がいる（隠れた魅力を発掘・PRする視点）
- ・ マラソンほかスポーツの環境が良い
- ・ 印旛沼周辺など自然資源が豊かで四季ごとに楽しめるイベントがある
- ・ 成田空港に近い（国際交流、外国人誘致）

②商業

- ・ 身近で便利（日用品・食料品）

③農業

- ・ 豊かな農地・農産物

(5) 環境・自然

1) 課題・問題点《主な意見》

①自然

- ・ 印旛沼の浄化・水質改善・環境保全
- ・ 印旛沼の観光集客資源としての有効活用
- ・ 開発による緑地の減少（都市開発による山林・緑地の減少）
- ・ 自然・環境保全への市民の理解促進

②環境

- ・ ゴミの分別・回収（ビン・カンのコンテナ回収・資源化促進等）
- ・ 地球温暖化防止・二酸化炭素排出削減への取り組みが不十分（太陽光等の自然エネルギーの利用、家庭へのPR・指導不足）
- ・ 農地（休耕地）が産廃の捨て場所になっている
- ・ 地下水をいつまでもきれいに

③公園

- ・ 子どもがボール遊びできる安全で広い公園が少ない
- ・ 西部自然公園の整備（自然を活かす、広い子どもの遊び場確保）

2) いいところ《主な意見》

①自然

- ・ 身近な自然・緑が豊かで、空気や水がきれい
- ・ 美しい田園風景、四季折々の自然、蛍が飛び交う自然
- ・ 印旛沼周辺の自然
- ・ 散歩道・ウォーキングコースがたくさんある

②公園

- ・ 佐倉城址公園、草ぶえの丘、西部自然公園、畔田の自然、ほたるの里などの公園のほか、身近な公園も充実

③環境

- ・ ゴミの分別・回収がしっかりしており、出し手のマナーも良い
- ・ まちがきちんと清掃され、ごみがなくきれい
- ・ 環境に関心の高い市民が多い

(6) 市民参加・協働・行財政

1) 課題・問題点《主な意見》

①市民参加

- ・ 市民活動団体やNPOの横の連携・つながりが弱い
- ・ 市民公益活動に対する助成（参考：市川市・八千代市）
- ・ 市民参加や協働を形だけに終らせないための対応が必要
- ・ シルバー世代の活用・活躍の場・機会づくり
- ・ 自治会など住民自治が不活発、若手の不参加

②市民意識

- ・ 地域住民・近所の人顔が見えない、隣人関係が難しい、挨拶がない
- ・ 市民としての一体感に乏しい、新旧住民の交流不足、地区による温度差
- ・ 都会を向いている住民が多い、まちづくりに関心のある人が少ない
- ・ 市の将来に対する話題性のないまち

③行政運営

- ・ ホームページを市民がもっと見やすく、情報を引き出しやすく
- ・ ホームページだけの伝達だと無理がある

④財政

- ・ 市民に財政がわかりにくい

2) いいところ《主な意見》

①市民参加

- ・ 市民の声を聞く機会が増えた
- ・ 市民カレッジなど市民活動は盛ん
- ・ 自治会活動が盛んな地区がある
- ・ 防犯・安全対策活動の拡充

②市民意識

- ・ 市民のまちづくりに対する関心が高い
- ・ 市民カレッジなど市民の学習意欲が高い
- ・ 近所付き合いがよく、挨拶も励行

個別意見ポストイット 《まちづくりの「課題・問題点」》

グループワークで参加者から出された意見(ポストイット)をカテゴリー別に整理した。

【 】			開
			開
			開
			場
			場
回			
		時	
		開	
		会	

【					
】					

【 】			
			会場
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			
【 】			

【				
			会場	
			場	
			場所	
			場所	
			場	
場		会場		
【			場	
			所	
				会

【 】				
		会		
時				
			日	
			開	

【			
			回
			日
			回
		所	
		場	
			場所
			場
】			
	開	開	
		開	

【	会		
			回
		会 会	
		会	
		会	
	所	日 所	
		会	
			時
	開		
	開		
		所	
		会	

			間
			会
			会
		会	会
	会		
	会		

【 】			会 場	
			時	
			回	
			日	
			所	
			所	
			場所	

【				
			場	
			場	
			会	会
				場所
【				
				場所

【			間		
			日		
			場所		
			場所		
【			回		
				会	
				会	
				所	
				所	

3. アンケート調査結果の概要

グループワークで発言・指摘した意見への補足、あるいはその後に考えついた意見などをフォローするため、グループワーク終了後に期限を決めてアンケートを実施した。

多くの参加者から多数の意見が寄せられた。それらの内容を要約し、6分野ごとに整理してまとめた。

(1) 地区または市全体の課題・改善すべき点

①都市

- ・ 自然とまちの景観、豊かな文化、厚い人情を活かした活気のある佐倉
- ・ 農業をキーワードに産直センターを核とした新旧住民・都市との交流
- ・ 市内南北を連絡する交通網の整備

②医療・福祉

- ・ 独居老人等の生活弱者の現状・ニーズの把握と組織的な対応
- ・ 子育て・高齢者・障害者への対応は、地域の人が助け合い、地域でできることは地域で取り組む。

③教育・歴史・文化

- ・ 歴史資源の活用・PR不足

④産業

- ・ 豊かな農業資源を活かし、生産者とJA、行政とが連携し、家庭菜園や市民農園を整備し、「佐倉菜園」を市のイメージとする。
- ・ 市役所と歴博がある京成佐倉駅前と商店街の活性化については、お金がなくても市民の知恵で取り組むべき。
- ・ 観光立市を標榜し、旧市街の再生、歴史と印旛沼の自然を融合したシンボルを構築すべき。

⑤環境・自然

- ・ 印旛沼の浄化と自然保護で主導的な役割を果たす。
- ・ 環境や身近な自然、里山に対する関心の高まりを施策に活かす。

⑥市民参加・協働・行財政

- ・ 行政への市民の参加意識の向上、市民と行政の協働の推進が必要。
- ・ まちづくりの理念とコンセプトの市民との共有、それを実現させるためのピラミッド型の行動計画、計画段階からの「市民力」の活用が重要。
- ・ 市民団体の運営能力を人材面、事業の計画・実施面で高める努力や団体同士の連携・ネットワークで相乗効果を発揮させる工夫が必要。
- ・ 次期総合計画の実施計画は、あるべき姿の羅列ではなく、何をいつまでにどれくらいやるという具体的な行動計画を掲載すべき。また、数値目標と優先順位、重点施策と副次的な施策の仕分けも必要。

(2) 市が重点的に取り組むべきこと、強化すべき施策

①都市

- ・高齢者の移動を考慮した公共交通機関の充実
- ・成田空港への近接性を活かした外国人にも住みやすいまちづくり
- ・いつも挨拶が飛び交う思いやりのまち、終の棲家として選ばれるまち

②医療・福祉

- ・近隣の医療施設と連携した医療体制の充実
- ・少子高齢化が自治体運営にもたらす問題への真剣な議論と積極的な対応

③教育・歴史・文化

- ・今後の日本を支える有能な子どもを育む環境づくりに重点を置くべき。
- ・保育所と老人施設の拡充面では、行政と民間、ボランティア間で連携を図る施策や条例を検討すべき。
- ・千葉県で唯一全国名城百選に選ばれた佐倉城の復元。佐倉の歴史と文化を語る上でも不可欠。
- ・歴史資源、特に縄文・弥生時代の遺跡の積極的な保全・活用

④産業

- ・人を呼ぶためのイメージづくりが必要。
- ・長嶋茂雄、雷電、マラソンをテーマとしたまちおこしへの取り組み
- ・佐倉の地域資源・魅力の統一かつ効果的な情報発信
- ・花と緑に関わる地域資源を連携させ、佐倉の花と緑の祭典としてPRする。
- ・身近な買い物利便性の高いまち
- ・成田空港への近接性を活かした先端・ハイテク企業の誘致、地産地消による農業振興、印旛沼を中心とする観光振興、城下町・国際都市としてのイメージづくりが重要。

⑤環境・自然

- ・佐倉市独自の条例制定による産業廃棄物処理への規制強化と環境保全
- ・印旛沼の再生と活用。具体的には水質改善、岸辺の整備、水辺に適した文化施設の整備、イベント開催、キャッチコピーの作成など。

⑥市民参加・協働・行財政

- ・有償ボランティアグループの組成
- ・市民講座・カレッジへの参加を通じた何でも相談できる友人づくり（心配事回収事業）
- ・税金の使途として施策の優先順位を決めることが重要。

(3) 新しいまちづくりの方向性・方策、市民参加・協働のあり方

①都市

- ・佐倉市は分散居住区点在型都市であり、高齢者を意識した公共交通と身近な買い物施設が主要課題。
- ・「子連れの若者世帯の誘致」と「住民相互扶助型コミュニティの構築」が重要。コミュニティビジネス型の福祉サービスや子ども手当、保育サービスの充実も必要。
- ・佐倉市は、旧佐倉市街と臼井・ユーカーが丘・志津に分かれ、鹿島川を挟んで別の都市があるような感じであり、両サイドの市民の交流が必要。
- ・公共施設や買い物施設を連絡するワンコイン巡回バスの運行。

②医療・福祉

- ・佐倉市全域で救急時の個人情報伝達方法を明確にすべき。

③産業

- ・従来型の駅前商店街振興の発想ではなく、高齢者の消費行動の変化を見据えた方策を講じる必要がある。
- ・コミュニケーションがとれる対面販売の小売店の増加を望む。

④環境・自然

- ・今後10年間は地球温暖化防止で市と市民が一致団結して取り組むべき。
- ・市が提示する温暖化防止策を市民が実行し、その成果を定期的に広報等で公表し、優秀者を「TOP100家」のような形で表彰するとよい。

⑤市民参加・協働・行財政

- ・NPOや市民団体が活動しやすい環境づくりとして資金面での支援が必要。市川市の「1%支援制度」のようなものを佐倉市でも検討すべき。
- ・佐倉市民カレッジのメンバーは、意欲、能力、実行力とも優れており、この力を活用することで、従来できなかった諸施策やサービスを実施すべき。
- ・定年退職した人が、自身の経験やノウハウを活かして、あるいは、新たに学んだスキルを活かして活躍できる場づくりを進めることが重要である。
- ・市民人材バンクを創設し、意欲のある人たちをメンバーとして登録し、各人の経験やノウハウを有効に活用する体制・仕組みを構築すべき。
- ・行政には、施策や計画づくりに市民の意見を聞く制度はあるが、市民の能力・経験を上手に生かす具体的な方法にもっと工夫する必要がある。
- ・計画のビジョンを明確にし、対象・数値・方法・期限の必要項目を具体的に提示すべき。
- ・行政、民間、市民の協働と役割分担を明記しなくては、行政への依存体質から抜け出せない。
- ・財政に見合った計画を作成することが大事。

アンケート結果・個別意見要約

アンケートで寄せられた意見をカテゴリー別に要約・整理すると下表のとおり。

●問1：「地区または市全体の課題・改善すべき点」

		間
		所
		所
		会

(問1の続き)

●問2：「市が重点的に取り組むべきこと、強化すべき施策」

		所		
		日		
		所	間	間
			時	
		開催		
		回		
		所	間	
			間	

●問3：「新しいまちづくりの方向性・方策、市民参加・協働のあり方」

		時
		回
		会
		時
		日
		開
		間
		間
		会
		場

(問3の続き)

		会 会
		会
		間
		会
		間
		間

●問4：「まちづくり懇談会の感想、その他市役所への要望など」

	時間 回	時間
		時間
		時間 時間
		回 間
		会 間
		会
		間 間
		会
		会 回
	第 第	
	会 開催	
	会 時間	
間		
		回 会 間 回 会
会		会 開催 会
		会 場
		会 時間
		会 会

(問4の続き)

	回
	日 場
間	時

IV. 第2回検討結果「新しいまちづくりに向けた提案」

第2回のまちづくり懇談会（グループワーク）では、佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案について、グループごとに検討してとりまとめ、発表していただいた。その発表の要旨を、会場・グループごとにまとめた。

1. グループワーク結果の発表・要旨

(1) 佐倉会場	場所：佐倉市役所社会福祉センター 日時：平成21年8月21日（金）19:00～21:00 参加者数：13名（A・B・Cの3グループ）
----------	--

Aグループ

提案1. 文化振興によるまちづくり

- ・佐倉市には、資産がある。浦安市や船橋市はいくらお金を持っていても城下町は買えない。それをいかに活用していくかを考えると、今までの対応はあまりにもお粗末である。再発見し、整理して、どう生かすか、相当のクリエイトが求められる。
- ・ミュージアムのあるまちも活用したい。これらをつなぐと面で売り出せる。
- ・もてなしの心を育むことが求められる。来街者に佐倉とはよいところと感じてもらい、もう一度来たいと思ってもらう、誰かを連れてきたいと思ってもらう。そうやってリピーターを増やしていく。
- ・総合的に関連づけていくのが、戦略である。文化資産を生かしたまちづくりを進めていくべきである。

提案2. 協働によるまちづくり

- ・佐倉市の人口は、17万人でピークアウトするが、その中でも65歳以上人口が3万人から5万人に増える。
- ・その結果、人々の収入が減り、市としての収入も減る。一方、支出は増える。
- ・そこで、リタイアした人の力を活用していくことが、重要となる。
- ・今までは提供する側が市で、市民は受ける側であったが、今後は、市民が提供する側にまわる必要が出てくる。
- ・シルバー世代、団塊の世代を活用していくことが求められる。それをコーディネートしていくのが市である。
- ・そういうモデル地域でありたい。
- ・シルバー世代の組織化が重要である。

Bグループ
提案1. 佐倉菜園都市の創造（農業体験による多様な交流）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐倉市への来訪者が、ただ来て帰って終わりではなく、リピーターとなって再来訪するような仕組みが重要。そのような魅力を創造していく。 ・ 家庭菜園・市民農園などで農業観光に結びつけていく。そこに新旧住民の交流も生まれる。異世代交流にもつながっていく。農業の活性化にもなる。
提案2. 子どもからお年寄りまで誰もが大切にされるまち
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てしやすい町、お年寄りも子供も人を人が大切にできる町。 ・ 子育て支援で、保育サービスなどを充実させる必要があるが、親もサービスの受け手で終わりでなく、親が、子育てが楽しく、成長していく町になればよい。子供の人権を大切にすることも重要。
Cグループ
提案1. 佐倉市の財産の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化資産・文化施設、スポーツなど、観光に生かして魅力を発信していく。その際民間企業とのパートナーシップを図る。企業メセナと結びつけ、企業に協力してもらえないか。たとえば、順天堂記念館など。
提案2. 自然を活かす
<ul style="list-style-type: none"> ・ 印旛沼や川を生かした観光ルートを設定する。文化施設と豊かな自然、多様な生物、風光明媚なところを結びつける。たとえば、印旛沼で若者が参加できるいかだレースをしたらおもしろい。
提案3. 市民の力を活かす
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の力（市民力）を事業に生かす工夫が市に足りない。いろいろな提案を具体的に書いてあるので是非参考にしてほしい。 ・ 目安箱のような仕組みを作って、常に市民の声が行政に反映できるように。市が手伝ってほしいことのボランティア募集。安心安全や道案内ボランティアの育成など。
提案4. メディアの戦略的な活用
<ul style="list-style-type: none"> ・ アドマチック天国や地井散歩で取り上げてもらったのにこれを観光につなげていない。フィルムコミッションなどでPRするのもよい。

(2) 臼井会場	場所：臼井南中学校図書室 日時：平成21年8月22日（土）9：30～11：30 参加者数：9名（A・Bの2グループ）
-----------------	--

Aグループ	
提案1. 自然と農業（花と農の恵みで多様な交流を展開）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐倉市の資源は何かと考えたとき、花、自然、スポーツ、花火が上げられる。これを全国にアピールしていく。 ・ 自然と農業では、佐倉は米を始め農産物がとれるが、これらをいかにアピールしていくかが重要。道の駅を整備して、農産物のコミュニティをつくってはどうか。これにあわせて、メイドイン佐倉バーベキュー祭りを創設し、市民や市外の人を巻き込み、自然の恵みをアピールしていく。 ・ 花によるアピールでは、桜、チューリップ、ラベンダー、ショウブ、草笛の丘のバラと、3月から花にまつわるイベント等をリレーしていくことができる。花リレーをアピールしていく。 	
提案2. 佐倉サミットの開催	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な考えを持っている人と意見を交わす場が必要であり、佐倉サミットの開催を提案したい。長期的な視野に立ち、年代別地区別に代表者を募集する。中高生から60・70代までが長期で参加し、佐倉にどういう問題があるのか、棚卸しをして洗い出す機会があってもよい。 ・ 市内は7つの地域に分けられる。この7つの地区から代表を呼んで、個々の問題を長期的、建設的に話し合う機会があってもよい。 	
提案3. 市民力の活用	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団塊の世代は、一線を退いていてもスキルがある。それを地域に落とし込んでもらう。市にはそういう人たちが活躍する場を提供してもらう。 ・ 市の予算は減っていくので、市の施設や行政サービスを民間に移管・委譲していくとともに優秀な人たちを活用していく必要がある。指定管理者制度のように行政の経費を節減する仕組みがあるが、民間のノウハウや活力、サービスを活用することが重要。 ・ 市民主体のまちづくりを進める方法としてまちづくり協議会がある。この仕組みをうまく円滑に行くようにしていくことが求められる。シルバー世代の組織化も重要。 	

Bグループ

提案1. 佐倉の強みを活かしたまちづくり

- ・強みを生かしたまちづくりを進めるべきである。その強みとは、住環境がよいこと、歴史があること、自然環境である。
- ・まず、住環境が整備された、立派な住宅地であることをアピールし、歴史地区は徹底的に整備する。たとえば電線は地中化する。そしてまちのメインポイントとして、よそから人に来てもらう。そうすると自然にまちが活性化する。散歩道もいろいろありすぎて、よそから来たときにわかりにくい。大佐倉とか臼井城、印旛沼などにきちんと整備し、気楽に歩ける道としてよそにPRしていく必要がある。そういう積み重ねで、全体のまちのイメージをあげていくことが重要である。

提案2. みどりや農業が目に見えるまちづくり

- ・市民農園があるが、広さは決まっており、期間も決まっていて使いづらい。自由に選べるようにしてほしい。
- ・農地を豊かにしていく。また、全体的にみどりを残していく。
- ・これらを、きれいに守るためには、人手やお金が必要である。そうすると、若い人が市内で働けるようになる。

3. 仲間づくり（市民同士の支え合い）

- ・介護にならないように気をつけているが、いずれそのようになった場合、国や市が面倒をみってくれる仕組みがある。しかし、歩けるおばあさんで一人暮らしとなったときなど、そういう人たちがひとりぼっちにならないようにすることが大切である。
- ・元気ならお金が使えるが、元気がなくなるとお医者さんにもいけなくなる。少し元気になったからお医者さんに行こうかということになる。精神的に落ち込んでしまう。楽しく暮らせる仲間づくりが必要。一人で困っている人が、相談したり、学べる場があれば安心できる。私の場合は、相談にのってと近所から来る。

(3) 志津会場	場所：志津コミュニティセンター 日時：平成21年8月22日（土）14:00～16:00 参加者数：17名（A・B・C・Dの4グループ）
-----------------	---

Aグループ	
提案1. 市民活動団体の活動に市民が参加しやすい仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・市内でいろいろ活動している知識が豊富なグループを一つにまとめ、参加しやすくし、知識を利用しやすいようにする。まとめて管理するところをつくる必要がある。 	
提案2. 地球温暖化防止への取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止だけでなく、地域の空気、水、みどりをまず守りたい。その上で、地球温暖化防止については、そういうことをやっているグループを市で広報してもらったり、市民が参加しやすい環境作りが大切である。そういう活動をPRする施設も必要ではないか。また、リサイクルで不要品をほしい人にわたる仕組みができないか。ゴミ焼却場の余熱を使ったプールもほしい。 	
提案3. 道路・公共交通機関の改善	
<ul style="list-style-type: none"> ・道路については、志津霊園問題の早期解決、道路工事の振動削減、路面の全面舗装の見直し、ブロック塀の生け垣化、バリアフリー化、大型車の進入禁止などを進める。 ・公共交通機関については、京成とJR間や成田新高速鉄道とのアクセスの改善及び京成線の臼井止まりの延伸などが望まれる。 	
提案4. 商業と観光の振興	
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化では、地産地消を生かし、対面販売の店を増やすことが重要。 ・観光面では、市内観光のバスツアーを設けるとよい。ガイドは地元を知っているボランティアを活用する。 	

Bグループ	
提案1. 市民と行政の信頼関係の構築	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政からはいろいろ書類が出ているが7割の人は知らない。まちづくりを進めるためには、行政と市民の信頼関係が重要である。議会では改革委員会ができていますが、市民と話し合わせる義務を持たせることが重要である。いまは信頼関係ができていない。 	
提案2. 新旧住民の交流（市民意識の一体化）	
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿島川を挟んで新旧地区の結びつきがうすい。何か交流しないといけない。 ・旧地区では農業や商業をやっている産業振興が必要であるが、新住民はベッドタウンで安らぎとかみどりを求めている。 	
提案3. 産業振興と雇用の確保	
<ul style="list-style-type: none"> ・働く場としてIT産業を振興したらどうか。佐倉は光ファイバーの太い基幹線が入っていないが、国の負担9割で導入が可能。そしてIT産業を盛んにすべきである。 ・観光イベント等での販売品（お菓子や野菜）に特徴がみられない。佐倉ならではの本物を販売することが大切。とってつけた変なものを売ると2度と人が来なくなる。 	
提案4. お年寄りの活用	
<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに子どもたちの見守りなどのパトロール活動で活躍してもらおうとよい。子どもたちと触れ合うことで、お年寄り自身が元気をもらっている。 	

Cグループ
提案1. 市民参加のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加のまちづくりが大前提である。平成18・19年頃、市民協働条例ができ、その中でまちづくり協議会が位置づけられた。これをベースにやっていくのが一番よい。そこにテーマを与えてやっていく。ここには自治会、社協、NPOなど、まちづくりに関わる団体が関わっていて、構成するすべての団体に問題解決に向けて取り組める。 ・ただし、この仕組みが今は小学校区単位でつくることとなっているが、ユーカリを例にとると、通学圏と生活圏は異なっていて、通学圏単位で問題解決を図るのは無理である。自治会や地区社協は長年生活圏に基づいて活動してきているので、そのエリアでまちづくり協議会をやっていくのがふさわしい。そこで地域の実態に合わせて住民主体でやると解決できる。
提案2. 観光資源の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の活用を進めていくべきである。印旛沼、歴博、武家屋敷などを一体管理して魅力のあるPRをしていく。そしてお金を落としてもらおう。印旛沼は、子供が泳げ、大人が釣りができるようにしたい。カミツキガメを駆除して安心して遊べるところとしたい。
Dグループ
提案1. 安心・安全のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉は子供からお年寄りまで多世代が住み続けられる町を目指す。防犯・防災もキーワードとなる。これらは市民協働がないと図れない。医療は充実しているけど福祉は不安定要因が残っている。
提案2. 観光をキーワードに
<ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼、歴史資源を生かす、農業、地場産業の育成、ベンチャー企業の誘致などを含め、財源確保のために。観光立市をキーワードに真剣に取り組むべきである。
提案3. 都市の再構築による市の一体感創出
<ul style="list-style-type: none"> ・地域格差の是正も課題である。鹿島川を挟んでこちら側の議論をしないといけない。教育も根付かせないといけない。格差是正のためには、市域全体を巡るワンコインバス等の交通整備が必要。 ・まちづくりにおいては都市計画がまちづくりそのものである。みどりを大切に、都市を再構築していく。きちんとやるのが大切である。
提案4. 市民参加型のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型のまちづくりを進める。市域の特性に応じたあるべき姿がある。それを市民参加で進める。

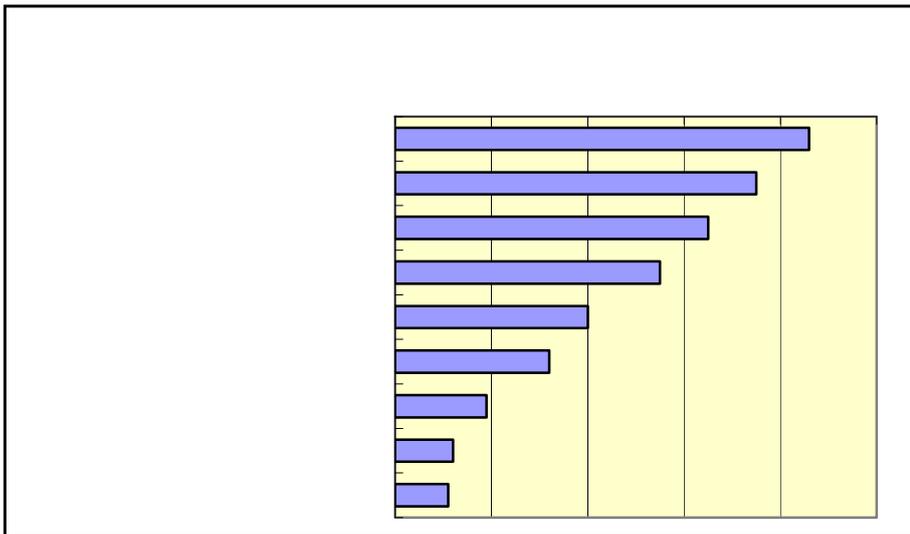
(4) 根郷会場	場所：根郷公民館 日時：平成21年8月23日（日）9：30～11：30 参加者数：8名（A・Bの2グループ）
-----------------	--

Aグループ	
提案1. 市民の力を活かす	
・ 団塊の世代の経験や知恵を活用していく。京成沿線（新市街地）と旧市街地の交流を進めていく。市民協働のためには挨拶運動から。	
提案2. 環境都市を目指す	
・ 印旛沼が一番汚い。環境によい石けんを100%が使うまちにする。それを市内外に宣伝していく。きれいになれば観光につながる。まずは、市の公共施設等で率先して使用し、市民にPRしていく。	
提案3. 観光振興と交流促進	
・ 大型バスが入れる道の駅みたいなものをつくり、お金を落としてもらおう。もてなしの心で受け入れていく態勢をつくる。チューリップ祭りをもっとアピールする。 ・ 桜のまちを目指す。鹿島川の土手に市民の協力で苗を植える。資金・労力は市民が、権利調整は市が行っていく。	
提案4. 安心して子ども産み育てることができるまち	
・ 佐倉市は、産婦人科が少ないので、子供を産みやすい環境とすることが必要。	

Bグループ	
提案1. 土地利用	
・ まちづくりの原点は土地利用になる。どれだけの面積があり、どれだけの人が住み、緑があり、商業・工業施設があるのか。理想を持って取り組まなければならない。	
提案2. 佐倉市の顔・シンボルづくり	
・ 佐倉はどんなところと聞かれたらどう答えるのか。私はさあと答える。シンボルをつくらなければいけない。高齢者が安心して住める、高齢者と子供の交流がある、生涯健康などいろいろあるが、まとめると生涯学習宣言都市がよい。 ・ 産業もまちの顔づくりには必要である。住民一人一人の顔が見える挨拶ロードをもうける。話題性のあるまち。テレビの活用も。産業では佐倉はこういうものが有名というものがない。道の駅のようなものに飾られPRできる産業おこしが必要である。	
提案3. 市民協働とコミュニティづくり	
・ 懇談会を定例化し、市民と行政が連携をとりながら、お隣同士とも仲良くやれる、市民協働とコミュニティづくりを進めていく。	

2. グループワーク結果の全体概要

- ・ 第1回まちづくり懇談会の結果（「課題・問題点」「いいところ」）を踏まえ、佐倉市の新しいまちづくりに関する意見・提案をいただいた。
- ・ その結果（グループワークでの提案件数）をみると、4会場（11グループ）全体で395件となった。
- ・ 内訳をみると、「産業」での意見・提案が86件と最も多かった。次いで「教育・歴史・文化」が75件、その他の中の「市民参加・協働・市民力の活用」が65件、「都市」が55件と続く。
- ・ 「医療・福祉」（32件）や「環境・自然」（40件）は他に比べ少なかった。



3. グループワーク結果の分野別の概要・まとめ

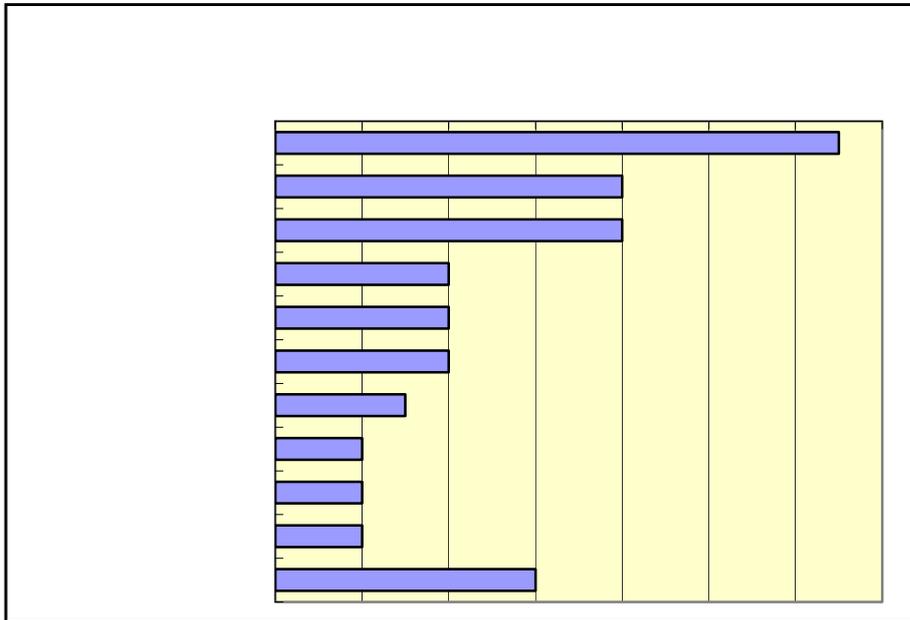
グループワークの検討結果の概要を分野別に整理してまとめた。

(1) 都市

- ・ 都市に関する意見・提案は全部で 55 件となった。
- ・ 内訳をみると、公共交通に関する意見・提案が 13 件と最も多く、次いで道路交通とまちなみ景観に関するものがそれぞれ 8 件であった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①市内循環バス(ミニバス)の運行(生活・交流・観光のための市民の足)。
- ②道路に愛称を付け、親しみやすく、気楽に歩けるようにする。
- ③子供やお年寄りにやさしい、危険箇所の少ない、バリアフリーの道路整備。
- ④鹿島川や高崎川の土手に市民の力で桜の木を植樹する(桜のイメージを増幅)。
- ⑤歴史的な景観、城下町の風情を復活させ、まちづくりに活用する。
- ⑥自然・環境保全と都市開発のバランスがとれたまちづくり(佐倉の魅力は自然)。
- ⑦コンパクトシティ…市内で一通りの用事を済ますことができる機能が揃ったまち。

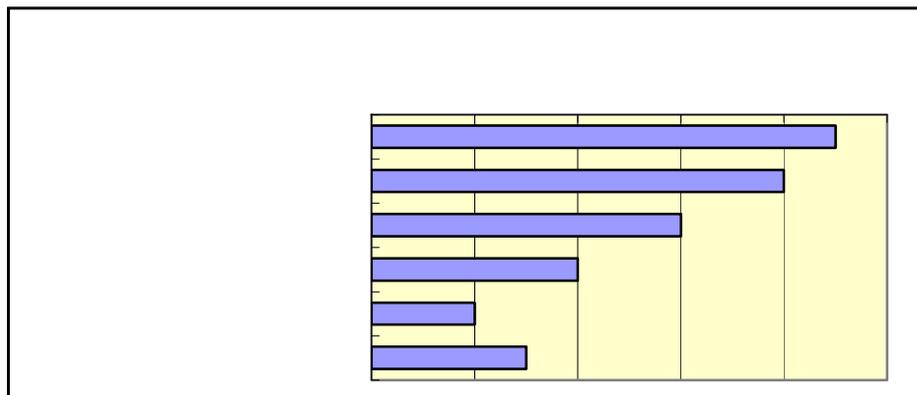


(2) 医療・福祉

- ・ 医療・福祉に関する意見・提案は全部で 32 件となった。
- ・ 内訳をみると、安心安全に関する意見・提案が 9 件と最も多く、次いで交流・コミュニティに関するものが 8 件、高齢者福祉に関するものが 6 件であった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①子どもからお年寄り、障害を持った人にやさしいまち。
- ②キーワードは、生活の安全安心、食の安全安心、防犯・防災。
- ③高齢者を中心に、市民同士の支え合いや自身の心身の健康づくりには、外に出て人と交流することであり、そのための場所と機会づくりが重要。
- ④独居老人や障害を持った人を地域で支援する仕組みが必要。
- ⑤元気な高齢者を活用する場と機会を創出する→特に子どもと接することは高齢者自身の元気づくりにつながる。
- ⑥心身ともに健康で長生きできるまち。

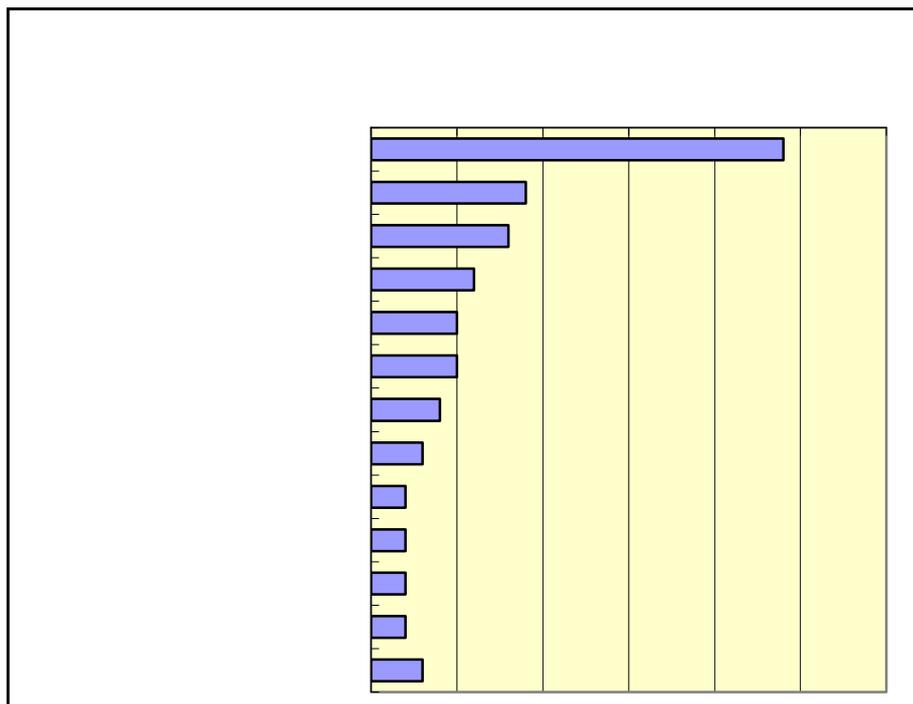


(3) 教育・歴史・文化

- ・ 教育・歴史・文化に関する意見・提案は全部で75件となった。
- ・ 内訳をみると、子育て・教育に関する意見・提案が24件と最も多く、次いで文化振興に関するものが9件、文化・スポーツに関するものが8件、歴史・文化資源活用に関するものが6件であった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①すべての子どもがあたたかく育ちを見守られ、保護されるまち。すべての子どもの権利が守られる子ども人権条例の制定を目指す。
- ②子育てのしやすいまちに関わる提案。
 - 医療費の無料化、助成対象年齢の引き上げ。産婦人科の誘致。
 - 子どもが自然と触れ合う場と機会の創出。
 - 子ども同士、子どもと大人・お年寄りが触れ合い、交流する場と機会の創出。
 - 保育の充実、子どもを預ける場所づくり、子育てサポートセンターの設立。
- ③文化とスポーツの振興に関わる提案。
 - 市民が容易に文化活動に参加でき、文化に親しむことができるまち。
 - 有名アスリートをたくさん輩出しているので、それらと歴史、自然の豊かさを活かした、豊かな自然と歴史・文化とスポーツによるまちづくり。
- ④佐倉の顔・シンボル・ブランドづくりと情報発信・PRに関わる提案。
 - 佐倉市は歴史・文化資源な豊かな自然環境など、多くの地域資源を有しながら、それらがうまく活かされ、情報発信されていない。このことに具体的に取り組み、佐倉のイメージを確立し、市民が共有するとともに情報発信・PRすべき。

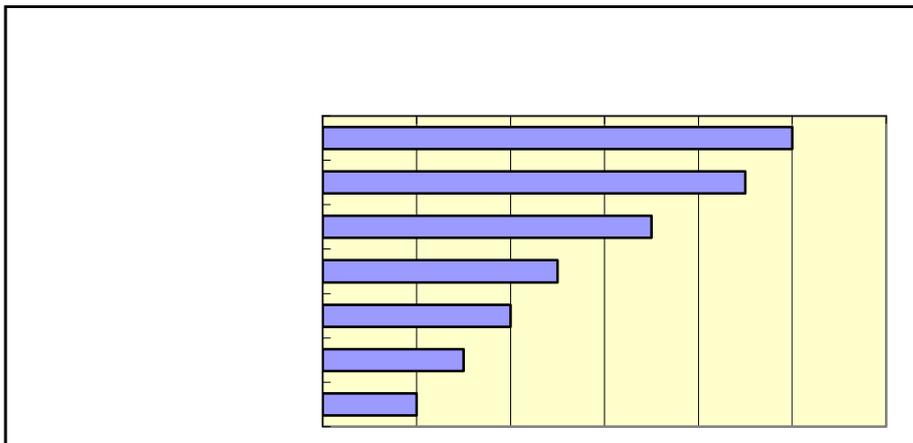


(5) 環境・自然

- ・ 環境・自然に関する意見・提案は全部で 40 件となった。
- ・ 内訳をみると、自然・環境の保全に関する意見・提案が 10 件と最も多く、次いで自然・環境の活用に関するものが 9 件、環境・リサイクルに関するものが 7 件など。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①自然・環境の保全面では、佐倉市の魅力は、おいしい水や豊かな緑であり、これらを守り継承していかなければならない。
- ②佐倉市の最大の魅力である豊かな自然を保全するとともに、市民の健康づくりや交流人口の誘致に活用すべき。
- ③印旛沼の自然に関しても、保全とともに市民の憩いや交流人口誘致のために活用すべき。
- ④ごみ問題や環境・リサイクルへの市民一人ひとりの意識の向上と取り組みが求められている。
- ⑤環境・リサイクルや温暖化防止への取り組みを徹底し、環境都市としての確固たる地位・イメージを構築すべき。



(6) その他

- ・その他は、全体で 107 件となり、内訳は、市民参加・協働・市民力の活用が 65 件、行財政運営・改革が 19 件、交流・コミュニティが 11 件、将来像・基本理念が 12 件であった。
- ・それぞれについて内容をみってみる。

1) 市民参加・協働・市民力の活用

- ・全体では 65 件であり、内訳は、市民参加の場・仕組みに関するものが 15 件、市民力の活用に関するものが 11 件、市民協働のあり方に関するものが 9 件などであった。

提案例(要旨)

①市民参加の場・仕組みに関する提案。

—市民が気軽に参加できる NPO 等の市民活動団体の育成・支援と、学校の空き教室の活用などの団体の活動の場の整備が必要。

②まちづくり懇談会の定例化。継続的な市と市民との対話・意見交換の場づくり。

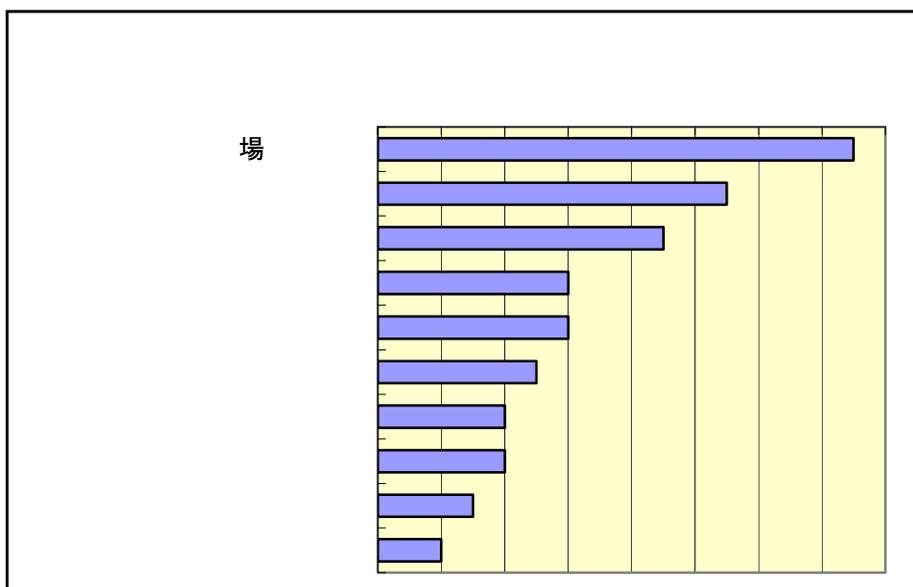
③市民力の活用に関する提案。

—やる気と能力を有する団塊の世代や高齢者の活躍の場と機会創出に注力し、「市民パワー活用」のモデル市になるべき。

—市民が主人公。市民の知恵を生かすシステムづくりや老人と市役所のスペシャリストが協働で事業のシステムづくりを行うべき。

④市民協働のあり方に関する提案。

—市民中心のまちづくり協議会のような体制をつくり、行政は主導でなくサポートを行い、ワンランク上の市民協働のまちづくり体制を目指すべき。



2) 行財政運営・改革

- ・全体では19件であり、内訳は、情報公開・共有に関するものが6件、業務執行の仕組みに関するものが5件、財政運営に関するものが3件などであった。

提案例(要旨)

- ①素敵なまちづくりには行政と市民の信頼関係が重要。その為にはガラス張りの情報公開が必要。ポイントは、見やすさとクイックレスポンス及び課題・施策・実現策・時期の明確化（いつまでにどのくらい）。
- ②行政サービスは徹底して民間委託すべき。但し、人権などに関わる部署については、期限ごとの変更は慎重にすべき。
- ③財政に見合った計画を立てるとともに、市で収入を得る活動を考え、それを改善策の費用に充てる。

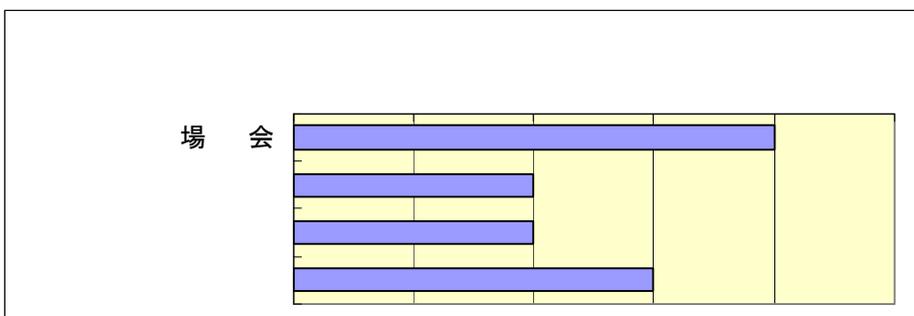


3) 交流・コミュニティ

- ・全体では11件であり、内訳は、交流の場・機会に関するものが4件、コミュニティの再生・育成と市民の一体化に関するものがそれぞれ2件などであった。

提案例(要旨)

- ①地域住民がいつでも集まって気軽に話しえる場が必要。
- ②臼井・ユウカリが丘・志津などの地域と旧佐倉市街の住民の交流のための仕掛け・仕組みづくり。



		会
		時
		所
		場 場
		日 会 場 回
		場
		回
	時	
	会 会	
	所	

		会
		間
		場所
	時	
	会 会	

	開	
		会 会 所
		会 時
		所
	場 会	
場	場	
	場	
	所 回	
	場 場	
	間	

		開
		開
		場所
		会
		回 場
		開
		会
		開
		時 場
		所
		開 回 開
	所	
	日	
	日	

場		会
		会 場所
		場
		会 場所 間
		会
		会
		会
		会
		会 会
		会
		会 会
		会
		会 場所
		所
	所	
	所 所	
	会	
	会 会	
	日	
	会 所	
	会 会 開催	

		会 所 会 会	
		催	
		会	
	開	開	会 会
			開 開 時
			間
			間
			時
場 会		場 会	所 場所 場所 場 時 場
			催

4. アンケート調査結果の概要

アンケートで寄せられた意見をカテゴリー別に要約・整理すると下表のとおり

(1) 佐倉市の将来像・まちづくりの方向・まちづくりの方策

① 都市

			開		
		場	時	開催時	
		場			
			所	場	
			場		
		所	回		
	会		会		

② 医療・福祉

		時間
		場
		所 会
		間 所 会

③ 教育・歴史・文化

		日
		日
		所 間
		会 日
		会 日
		開
		開
	会	

④ 産業

		開
		日 場 日 会 日 会 所
		場
		所
		場
		日
		開催 催 場
		会 第 回 会 第
		開催
		時 間 場
		催 場
		間

⑤ 環境・自然

		場	
			場

⑥ その他

		所 間
		会
		場
		会 間 時
		開
		会 会 会 間 時
		間
		所

(2) 提案実現のための課題、市民参加・協働のあり方

(2-1)

		会 会
		会
	開	開
		場
		開 開催 会 開 会 開
	会	会 会
		会
	会	会
		会 会 会 会 所
		会
		催 会

(2-2)

		所	会
			会
			開 会
			第 会
間	間	場	
			日 会
			間 間

(3) まちづくり地区懇談会の感想・市役所への要望

		第 回	会 会
			会
		時間	時間 回
			時間
		回 回	催 会 時間 第 回 会 場所
			開
回		場所 日	
		日 所	
		所 開	
		会 回 時間 回開催 時間 場 回 間	
		回	
時間		時間	
		時 回	
	時間	時間	
	日間 時間	会 会 開	

以上

